

大学と地域社会

～コミュニケーションツールとしてのスポーツ～

一橋大学 岡本ゼミ A

大崎裕貴子 阪田隆治 蜂谷麻里亜 松井浩紀

はじめに

一橋大学の学生にとって国立市及び近隣地域は大学の所在地というだけでなく、生活の拠点として不可欠な存在である。このように近年、大学と地域の結びつきの重要性が世間でも叫ばれるようになってきている。しかし、実際には大学と地域間に親密な関係性を築くのはなかなか難しい。そこで私たちはその関係性の地盤として、学生と地域住民とが直接に触れ合いコミュニケーションをとることのできる学生主導の地域密着型スポーツクラブの設立を提言する。この場での交流を通して学生と地域住民との距離感を縮め、互いへのより深い理解や気軽な支援ができるような関係性の土台を築くことを目的とする。特に私たちは一橋大学の学生として、一橋と国立市を初めとする近隣地域に焦点を当てて具体的な政策を提示する。

なぜスポーツを用いるのか？

大学と地域の人々を結びつけるためのコミュニケーションツールとしてスポーツが有効なのではないかと考えた。というのは、スポーツの特性として顔と顔、身体と身体との接触から生まれる一体感が人と人との交流をより円滑にすると考えることができるからだ。スポーツの特徴として一緒にプレーしたり、観戦したりすることで感動や喜びなどの感情を共有し、人と人とのつながりを深められることが挙げられる。このためスポーツは、これまで同じ地域に生活しながらも接点のなかった人々を巻き込んで、より豊かな地域社会を築き上げていくという目標の下では非常に有効なツールであると言えよう。そして、この有効なツールをどのように活用すれば大学と地域を結びつけることに繋げられるかと考えた時に、社会貢献活動という形でスポーツを活用するということに辿り着いた。なぜなら、社会貢献活動を通して、大学と地域を結ぶ存在の一つである学生を最大限に活用できるからである。また、上記の理由から、社会貢献という大勢の人々を巻き込む活動においてスポーツは有効なツールである。

学生と社会貢献活動

- ・学生の社会貢献活動に対する関心と問題点

学生のボランティアなどの社会貢献活動に対する関心が近年高まっているが、実際に参加している人数は多くない。というのは、それらの学生が社会貢献活動に対する知識が無かったり、そもそも参加する機会が与えられなかったりしているからである。また、物質

的見返りや報酬のない社会貢献活動は現代の若者にとって魅力的とは言い難い。

・インセンティブの必要性

これまで他大学や地域も地域に根付いたスポーツクラブを目指していたが、継続的な成功をおさめられているのは少ない。それらの大きな原因は、活動の肝となる学生の参加が伸び悩むからである。というのは、学生はなかなか報酬や物質的リターンのない活動に対して積極的に参加してくれないという要因が大きいからである。そこで、我々はそれを乗り越えるために、学生に参加へのインセンティブを与えること提案する。ボランティアをする際にしてのインセンティブを大きく 2 つに分けると消費的と投資的なインセンティブがある。¹

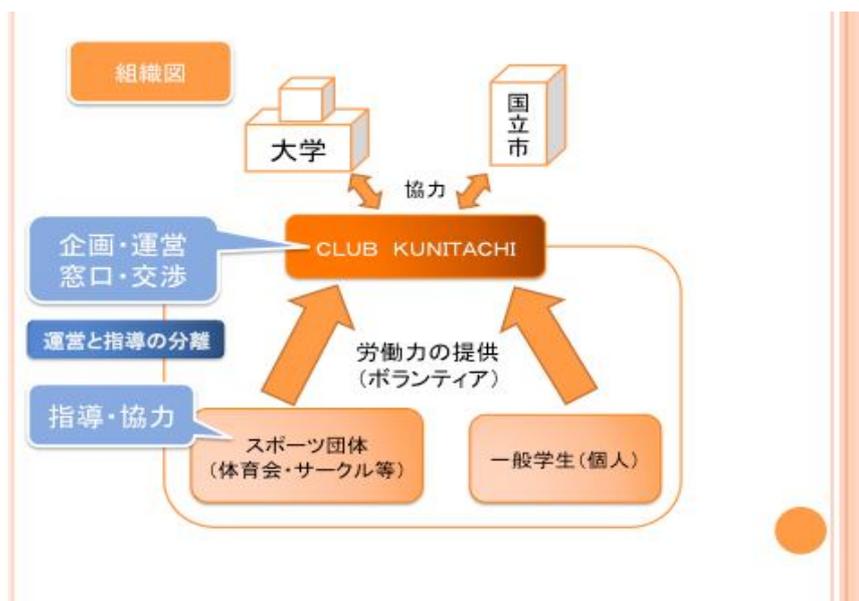
	消費的	投資的
期間	短期的	長期的
目的	活動を通じて満足感を得る。活動自体に満足を感じる。	活動自体からは満足感を得ようとせず、何か別の目標のための投資という考え方。
例	旅行、スポーツ観戦、映画鑑賞	資格の勉強、英会話塾、インターン

【表】消費的・投資的インセンティブの比較

今日の多くの学生が社会貢献活動に携わるようになる要因は投資的理由が大きい。²そのため、より多くの学生を動かすには、投資的インセンティブが有効だといえるだろう。学生にとってのインセンティブは現金や単位などあるが、ここではそれら以外を考えてみる。

政策提案

「CLUB KUNITACHI (仮)」学生による地域サポート型スポーツクラブ



¹ 内海成治 (2001)

² 野沢武敏 (2001)

提言先：

大学、地域住民、役所

参加対象：

一橋大学の体育会やサークルなどの団体及び個人

それぞれの役割：

大学→施設や場所の提供

学生→、運営、指導、人材・マンパワーの提供

役所→告知や掲示

広報活動・人を集める方法：

SNS ページを通じた広告活動、市報に掲載、市の 52 カ所の掲示板に掲示、国立市民体育館の告知掲示板に告示する。

活動内容(例)：

- ・ 社会貢献や組織の運営に関心がある学生によるスポーツクラブの運営
- ・ 近隣の学校への人材派遣
- ・ 個別のクラブのサポート
- ・ 介護者用のスポーツ援助
- ・ 中高年のためのスポーツ教室・合同スポーツ
- ・ 子ども向けのマイナースポーツ体験会

実在するニーズ：

- ・ サッカー同好会の女子がおじさんと試合。一緒に交流したい。
- ・ 一橋大学の体育会を応援するためのグループを設立しようとする地域住民の声

大学と地域を結びつけることが最大の目標である。そのため、スポーツクラブとして利益をあげることは優先課題とはしない。現在、大学の近隣地域には地域に根ざした*スポーツクラブやチームが多く存在する。我々の目指すスポーツクラブの理想形は、それらのクラブと競合することではなく、既存のクラブがまだ埋められない地域のニーズを満たし、それらが抱えている課題を補うような存在になることである。すなわち、地域のニーズを汲み取るという補完的な役割を担うと同時に、自分たちの目的も達成することができる。

*スポーツクラブ

地域に存在するサッカークラブ、草野球チーム、ママさんバレーなどであり、有料フィットネスクラブなどを指すものではない。

政策提案における課題

- ・ 学生の参加意欲不足
- ・ 住民に対する参加への動機づけ
- ・ 継続的な参加と活動

解決法とメリット

1) 地域住民

- a. 世代や校区の垣根を越えた交流が可能になる
- b. 子どもの参加を通じて親の交流を促す
- c. 今まで満たされなかったニーズが満たされる
- d. 比較的安価で様々な種類のスポーツにふれあえる

2) 学生

- a. 新入生歓迎活動におけるアドバンテージ
- b. 有形・物質的な報酬 ex. 国立ポイント、生協における換金制度
- c. 活動自体から得られる満足感や達成感

3) 大学・役所

- a. 人材やお金かける必要がほとんどない
- b. 国立市としてのブランド力・知名度の向上
- c. 大学としてのアピール要素が増える

<資料・文献>

学生生活白書 2010 年度版

岡本栄一 (2005) ボランティアのすすめ、ミネルヴァ書房

野沢武敏 (2001) 現代社会とボランティア、ミネルヴァ書房

清水諭 (2011) 現代スポーツ評論 25、創文企画

内海成治 (2001) ボランティア学のすすめ、昭和堂

吉見俊哉 (2011) 大学とは何か、岩波新書